

<日本史探究 第43講> 室町時代① 【問題編】

第1問 次の文章を読んで、以下の問に答えよう。(中央大 法)

1318年に後醍醐天皇が即位すると、親政を開始し、鎌倉幕府から政権を奪回することに意欲を示した。足利高氏(のち尊氏)や新田義貞らの活躍により、鎌倉幕府が滅亡すると、①後醍醐天皇は京都で新しい政治を始めた(建武の新政)。しかし、その政策は武士の不满をまねくとともに、増税などにより公家や庶民のあいだからも不满も噴出した。

問1 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしよう。 A: ( ) B: ( ) C: ( )

A. 後醍醐天皇は、記録所や訴訟を扱う雑訴決断所などを中央に設置し、諸国には国司と守護を併置した。

B. 後醍醐天皇の御所に近い鴨川の河原にかかげられたといわれる「二条河原落書」は、建武の新政下の混乱ぶりを風刺したものである。

C. すべての土地所有者の確認には、後醍醐天皇に令旨が必要とされたため、安堵や訴訟が滞った。

こうした状況において、足利尊氏は新政権に反旗をひるがえし、南北朝の動乱が始まった。動乱の中で、②守護の権限が強化されたことにより、守護の中には一国全体に及ぶ支配権を確立する者も出てきた。

問2 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしよう。 A: ( ) B: ( ) C: ( )

A. 幕府の裁決を荘園や国衙領に伝え、強制執行する権限が守護に与えられた。

B. 幕府が初めて出した半済令は、1年限定で畿内各地を対象にしたものだったが、以後全国で繰り返し実施されるようになった。

C. 荘園や公領の領主は、一定の年貢を確保するため、年貢の徴収・納入を守護に請け負わせた。

第2問 次の史料A・Bを読んで、以下の設問に答えよう。(日本女子大文)

【史料A】

比比都ニハヤル物、夜討、強盜、①謀<sup>にせ</sup>綸旨。召人、早馬、虚騒動。生頭、還俗、自由出家。俄大名、迷者、安堵、恩賞、虚軍。(後略)

問1 史料Aは、鎌倉幕府滅亡後の京都の世相を記したものとされる。下線①は誰が発信した文書として偽作されたか?人物名を漢字で答えよう。( )

問2 史料Aは世相の風刺として二条富小路付近の河原に掲げられたものとされるが、そこに流れる河川の名称を、漢字で答えよう。( )

問3 史料Aを含む記録の名称はどれか?正しいもの次の中から一つ選ぼう。  
<建武年中行事 建武(年間)記 梅松論 太平記> ( )

【史料B】

諸国ノ軍勢、軍忠ノ支証ヲ立、申状ヲ捧テ恩賞ヲ望輩、幾千万人ト云数ヲ知ズ。実ニ忠アル者ハ功ヲ憑<sup>たのん</sup>テ詔<sup>へつら</sup>ハズ、忠ナキ者ハ奥ニ媚<sup>こ</sup>ビ、竈ニ求メ、上聞ヲ掠ル間、②数月ノ内ニ、僅ニ二十余人ノ恩賞ヲ沙汰セラレタリケレドモ、事正路ニ非<sup>やが</sup>トテ臆<sup>おそ</sup>テ召返サレケリ。

[注]竈ニ求メ…実権を握る臣に頼ること。

問4 史料Bは、史料Aとほぼ同時期の出来事を物語として記したものである。下線②に見られるような混乱のため、重要政務の処理を目的として中央政府機関に当初より設置された組織は何か?漢字で答えよう。( )

(中略)只今マデハ朝敵ナリツル者モ安堵ヲ賜リ、更ニ忠ナキ輩モ、③五箇所十箇所ノ所領ヲ給リケル。  
(中略)・・・今兵革ノ後、世イマタ安カラズ。国費民苦テ、馬ヲ花山ノ陽ニ帰サズ。牛ヲ桃林ノ野ニ放タズ。

問5 下線③に関連して、この時代、主に所領に関する裁判事務を行った行政機関は何か?漢字5文字で答えよう。( )

大内裏作ラルベシトテ、昔ヨリ今ニ至マデ、我朝ニハイマダ用ザル[ 4 ]ヲ作り、⑤諸国ノ⑥地頭・御家人ノ所領ニ、課役ヲ懸ラルル。

問6 空欄4に入る言葉は何か?次の中から一つ選ぼう。( )  
<大判 銀貨 銅銭 紙銭>

問7 下線⑤に関連して、この政権により東北地方に設置された行政機関は何か?漢字で答えよう。( )

問8 鎌倉幕府滅亡後の政治的混乱は、下線⑥の人々の組織変化が根底にあった。鎌倉時代後期に崩壊を始めた、一族の血縁的統制を基礎として宗家を首長とする体制を何というか?漢字で答えよう。( )

問9 史料A・Bにみられる混乱を引き起こした政権は、多くの武士の不満と抵抗を引き起こした。このような状況の中で、北条時行が起こした軍事的抵抗を何というか？ ( )

問10 問9で発生した抵抗を鎮圧するために関東に派遣され、時の政権に反旗を翻し、のちに光明天皇を擁立した人物は誰か？漢字で答えよう。( )

問11 史料A・Bの政治的混乱をもたらした政権は、その後吉野に拠点を移したが、ここは現在の都道府県ではどこに相当するか？漢字で答えよう。( )

第3問 次の文章を読んで、以下の問に答えよう。(明治学院大)

後醍醐天皇は、①1331年の討幕挙兵計画が失敗し隠岐に流されたが、討幕の機運が広がる中で隠岐を脱出した。

問1 下線部①の事件を何と呼ぶか？ ( )

1333年に鎌倉幕府が滅亡すると京都へ戻り、光厳天皇を廃して、建武の新政と呼ばれる、新しい政治を始めた。後醍醐天皇は、摂政・関白を置かず、これまでの院政や幕府も否定し、また、すべての土地所有者の確認には天皇の( ② )を必要とするという法令を出し、権限を集中させた。

問2 空欄②には天皇の意志を蔵人が承って伝える形式の文書を示す語句が入る。この語句を漢字2文字で答えよう。( )

しかし、現実には天皇の力だけで治めるのには限界があり、( ③ )などの機関が中央に設置され、また地方には国司と守護が併置されていた。

問3 空欄③には鎌倉幕府の時代に裁判の公平と迅速を図るために設置された機関を引き継ぎ、専ら所領問題等の訴訟を裁決した機関が入る。その機関を何と呼ぶか？ ( )

このような天皇を中心とした政治体制は、それまでの武家社会の慣習を軽視していたため、武士たちの不満や抵抗を惹起することになった。そうした状況の中で、④鎌倉幕府の最後の得宗であった北条高時の子である北条時行が決起すると、その反乱を討伐するため関東に下った足利尊氏は、討伐後に後醍醐天皇の新体制に反旗を翻した。

問4 下線部④の事件を何と呼ぶか？ ( )

足利尊氏は、1336年に京都を制し、光明天皇を擁立して、当面の施政方針である⑤『建武式目』を定めた。

問5 下線部⑤に関連して、次の史料について、以下の問に答えよう。

…遠くは延喜・天曆両聖の徳化を訪ひ、近くは義時・泰時父子の行状を以て、近代の師となす。殊に万人帰仰の政道を施されば、四海安全の基たるべきか。仍て言上件の如し。(『建武式目』)

下線部に関連して、鎌倉幕府が制定した基本法(武家法)を何と呼ぶか?漢字5文字で答えよう。

( )

これに対して、後醍醐天皇は吉野の山中へ逃れ、自らが正統の皇位にあると主張した。以後、( ⑥-1 )統の流れをくむ南朝と( ⑥-2 )統の流れをくむ北朝と対立し、約60年間にもわたる南北朝の動乱が始まった。

問6 空欄⑥-1と空欄⑥-2に当てはまる語句を、それぞれ漢字3文字で答えよう。

⑥-1: ( ) ⑥-2: ( )

動乱の当初、南朝側は、鎌倉幕府を滅ぼした新田義貞や、( ⑦ )が戦死したこともあり、形勢が不利であったものの、⑧北畠親房らが抵抗を続けた。

問7 空欄⑦には後醍醐天皇に仕え、摂津・河内・和泉の守護となったものの、足利尊氏の大軍を迎え撃った摂津湊川で戦死した人物が入る。その人物は誰か答えよう。( )

問8 下線部⑧に関連して、北畠親房が後村上天皇までの皇位継承の経緯について述べ、大義名分論に基づいて、南朝の正統性を主張した歴史書を何と呼ぶか? ( )

一方、北朝側が、1338年に足利尊氏が征夷大將軍に任じられ、室町幕府を開いた。しかし、尊氏の執事である( ⑨ )を中心とした、武力による所領拡大を狙う勢力と、尊氏の弟である足利直義を中心とした、鎌倉幕府以来の法秩序を重視する勢力との対立が激しくなり、⑩1350年に両勢力は武力衝突を起こした。

問9 空欄( ⑨ )には室町幕府創設時の功勞により執事となり、権勢をふるった人物が入る。その人物は誰か? ( )

問10 下線部⑩に関連して、両勢力の武力衝突およびそれに連動した全国的争乱を何と呼ぶか?

( )

上述のような動乱の中で、次第に力を増した地方武士を動員するため、⑪幕府は守護の権限を大幅に拡大した。守護はその権限を利用して荘園や公領を自らの所領とし、支配下に置くようになった。

問11 下線部⑪に関連して、守護の権限の一つで、次の史料に示されている施策を何と呼ぶか？

一 寺社本所領の事 観応三・七・廿四御沙汰…次に近江・美濃・尾張三ヶ国の本所領半分の事、兵糧料所として、当年一作、軍勢に預け置くべきの由、守護人等に相触れおはんぬ。半分に於いては、宜しく本所に分かち渡すべし。(『建武以来追加』) ( )

しかしながら、守護の力が弱い地域では、( ⑫ ) と呼ばれる武士たちが自主的に相互の紛争を解決したり、農民を支配するために契約を結んだりして、地域で( ⑫ ) 一揆を起こすこともあった。このように彼らは一致団結して、守護の支配に抵抗する力をもつところもあった。

問12 空欄⑫に当てはまる語句を答えよう。 ( )

第4問 次の文章を読み、設問に答えよう。(松山大)

鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇は直ちに京都に帰り、新しい政治を始めた。翌1334(建武元年)、年号を建武と改めたので、①天皇のこの政治を建武の新政という。

問1 下線部①について、建武の新政で中央の機関として設置されたものとして不適当なものを、次の中から一つ選ぼう。〈恩賞方・記録所・留守所・雑訴決断所・武者所〉 ( )

天皇は、幕府も院政も摂政・関白も否定して、天皇への権限集中をはかり、すべての土地所有権の確認は天皇の( あ )を必要とする趣旨の法令を打ち出した。天皇中心の新政策は、それまで武士の社会につくられていた慣習を無視していたため、多くの武士の不満と抵抗を引き起こした。

1336(建武3)年、京都を制圧した足利尊氏は、すぐに後醍醐天皇を廃し、持明院統の( い )を立て、幕府を開く目的のもとに当面の政治方針を明らかにした建武式目を発表した。

問2 文章中の空所( あ )( い )に入れる語句または人名として正しいものを、それぞれ答えよう。 あ：( ) い：( )

後醍醐天皇は、京都を脱出して吉野に入り、そこで正統な天皇であることを主張したので、京都にある足利政権に擁された持明院統の朝廷(北朝)と、②吉野にある大覚寺統の朝廷(南朝)の2つが並び立つ状態となった。

問3 下線部②について、南朝の立場から皇位継承の道理を説いた歴史書『神皇正統記』を執筆した人物を漢字で答えよう。 ( )